

## 第243回 令和8年6月4日（木）

### 「天災は忘れたころに…」

「天災は忘れたころにやってくる」ということわざがあります。天災は不可避のものだから常に備えておけという教訓を含んでいます。ところが今は毎年のように豪雨や台風が日本を襲い、大きな地震も絶えません。夏の暑さも災害級です。天災は忘れる前にやってきているようです。

地震についていえば「東日本大震災」が15年前に日本に大災害をもたらしました。この地震によって日本の近くのプレートが刺激され、日本は地震多発のモードに入っているとされています。いつ次の大地震がきても不思議ではない状況です。

15年前は私たちから見れば昔の話かもしれませんが、歴史の尺度から見れば昨日の出来事のようなものです。マグニチュード8クラスの地震が複数回日本に襲ってくる可能性も十分あるわけです。（日誌を書いているのは少し前なので、もしかしたら現在は地震が起きている可能性もありますね。）

ところが人間のほうは15年というとかなりの年月です。当然高校生であるみなさんの年代では東日本大震災を記憶している人は少ないと思います。あのときに起きたことが風化してしまうわけです。

東日本大震災は東北だけを襲った地震ではありませんでした。ここ神奈川県でも震度5近くの揺れが長く続き、私は帰れなくなった生徒たちと学校に泊まりました。電車は動かなくなり帰宅困難者が多数出たほか、電力が不足したため計画停電でしばらく電車も動かなくなりました。

電車を利用する生徒は登校できなくなり、特に相模線の復旧が遅れたため長い生徒で1カ月程度学校に来られなくなりました。また発生当初携帯はまったくつながらず、いまはあまり見かけなくなった公衆電話が比較的つながったことを覚えています。

福島第一原子力発電所の影響で転校を余儀なくされた生徒も多数出ました。現地の復興はいまでも道半ばですし、原子力発電所の廃炉についてはみなさんの世代で間に合うかどうか不明です。

ぜひご家庭で地震が来た時にどうするか、行動を話してみてください。みなさんの保護者世代は鮮明に東日本大震災の記憶が残っていると思います。学校と自宅の登下校中や、塾に行っているときなど、自分で判断が必要なケースもたくさんあります。

災害は時と場所を選びません。自分は大丈夫と思わないようにして備えてください。